





議長	局長	次長	係長	係
				

第 3 号	受 付
令和 5 年 8 月 30 日	
請 願	

令和 5 年 8 月 30 日

阿久根市議会議長
 仮屋園一徳 様

請願者

阿久根障がい者青年学級 笑(スマイル)

会長代理 住所 阿久根市

氏名 西田 数市

紹介議員 牟田 学

「障がい者青年学級」の開設に関する請願

(請願の趣旨)

私たち「阿久根障がい者青年学級 笑(スマイル)」は、出水養護学校高等部(現在の名称は出水特別支援学校)を卒業した阿久根に住む子どもたちの保護者が、卒業後に青年らしく「生きる力、生活する力」を獲得することを目的に、平成28年4月24日に設立しました。毎月、体験学習やスポーツ・イベントを保護者やボランティアスタッフの協力で行って来ました。

しかし、認知度が低く、学級生や支援者が増えず活動が限定的なっています。また、現在はコロナ禍で活動を休止しており、今後状況によって再開する予定です。

特別支援学校在学中は、学校や放課後等デイサービスなどで友達や職員の方々と楽しむ場があり、そこが生徒たちにとって貴重な存在でした。しかし、卒業後は次のような問題があります。

- 卒業したら、みんなバラバラになって、もう会うことも無くなること
- 他人とのコミュニケーションが上手く取れないため、職場や作業所と家庭を往復するだけの生活が一生続くことになる
- 仕事が終わってから、友達とお話したり、遊びに行ったりすることもない
- 毎日の生活での不安や悩みなど話ができ、仲間との触れ合いの場が少ない。

卒業後は、このような状況が起こることから、それに取り組む場として、家庭や職場でもない第3の場として「障がい者青年学級」が必要になってきます。青年学級の活動が、仲間と一緒に活動したり、話したり、考えたりして、楽しい時間を過ごすことが青年たちの心を豊かに潤し、成長させてくれるものと思います。

現在、阿久根市内の小・中学校では、知的障がいや情緒障がい、多動性障がいなどの子どもの数が増加しており、阿久根市内の小学校の特別支援教室児童数は、平成29年度が39名だったのに対して令和5年には123名と激増しており、特別支援学級もそれに伴い増設しています。このような傾向のなか、将来この「障がい者青年学級」がさらに必要になってくると考えます。

市議会におかれましては、本請願の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

(請願事項)

「障がい者青年学級」を、社会教育・生涯学習の一環として行政により開設すること